談話における副詞「けっこう」の機能について

——配慮表現としての機能を中心に——

福田伸枝（創価大学）

要　旨

本研究では、程度副詞「けっこう」[1]の誘導副詞としての用法に着目し、談話の中でどのような機能を果たし得るか語用論やポライトネスの観点を用いて対人関係上の視点から分析した。そして、先行研究では詳細が明らかにされていなかった、「けっこう」が《反論》《非難》という発話機能の中で、文末の非断定的な表現と結びつくことが多く、それらを緩和させ、聞き手への配慮を示す配慮表現として機能することが本研究で明らかになった。また、それらの発話機能においては文末が断定的な表現であっても十分に配慮表現として機能するということを述べた。

キーワード：けっこう、副詞、発話機能、ポライトネス、配慮表現

1. はじめに

本研究では程度副詞の「けっこう」の用法に着目する。さらに、この程度副詞から派生した用法として、渡辺（1990）の「誘導副詞」がある。本研究は程度副詞としての「けっこう」の中でも特にこの渡辺の誘導副詞としての用法を研究対象として議論を進めていく。渡辺は誘導副詞について、

（1）結構、彼がやったのかもしれない。

という例文を挙げ、これについて「予想外のことだが気付いてみれば大いにあり得る、といった気持ちを込めた、誘導副詞になりきろうとしているようである」（p. 16）と言及している。また、この誘導副詞としての用法が派生するメカニズムについて蓮沼(2001)では、「『自分の予想以上に、事実はそうである可能性がある』という言い方をすることにより、話者はその最終的な真偽について、判断の責任を回避することができる」（p. 292）と述べている。このような蓮沼の考察内容を見ると、「けっこう」が対人関係上で何かしらの機能を果たし得るのではないかと考えずにはいられない。

そこで、本研究では、この渡辺（1990）の誘導副詞としての「けっこう」の用法に焦点を当て、対人関係やコンテクストを考慮した語用論やポライトネス理論の観点から、この「けっこう」について考察していく必要があるのではないかと考える。そしてこの誘導副詞としての「けっこう」の用法が特定の文脈で使用されるとき、聞き手に何かしらの配慮を表す機能があるのではないかということに注目する。そして渡辺の誘導副詞としての「けっこう」は配慮表現として認められるのかということを調査し、配慮表現としての「けっこう」が使用されるメカニズムを明らかにする。

2. 先行研究

渡辺（1990）では脚注において、「けっこう」について、若い世代の間で「誘導副詞」とし

ての用法が認められると、その現象について言及されている。その例文は以下のとおりである。

(2) 結構、彼がやったのかもしれない。(※ (1) と同様)

ここでは「予想外のことだが気付いてみれば大いにあり得る、といった気持ちを込めた、誘導副詞になりきろうとしているようである」(p. 16) とこの用法について分析されている。そして、前にも述べたように、「けっこう」は「おもしろい」「きれいだ」「速い」などと共起し、「つまらない」、「きたない」「遅い」などとマイナス評価の語とは共起しないという対立があることを示し、「けっこう」は「対象に優勢を認めるという意味」でのプラス評価の程度副詞であると述べている。しかし、以下の例文のように、

(3) 結構、つまらない (きたない／遅い)

という用法では、「マイナス評価の語との共起を認める者が少なくないようである。」としている。

次に、寺村 (1991) で「けっこう」は、「程度, 数量」という大きな副詞の分類において「主観的, 感情移入」(p.288) というカテゴリーに分けられている。

また、中田 (1991) で「けっこう」は「やわらげ, ぼかし」の機能を持つ副詞として取り上げられている。そしてまた、この「やわらげ, ぼかし」の機能を持つ副詞は「配慮やとりなしに通じるものがある」(p. 89) と、これらの機能を持つ副詞は、否定的な発言をする際に、クッションとして用いられ、相手への配慮にもつながると述べている。

蓮沼 (2001) では、渡辺 (1990) では十分に分析されていなかった、誘導副詞としての「けっこう」の用法について言及し、その用法が生じるメカニズムについて明らかにしている。そして、「ここでの『けっこう』は、『かも知れない』という判断と結びついて『案外そうであり得る』といった判断を予告する表現に、その機能を変容させている」(p. 286) と、この誘導副詞としての「けっこう」について述べている。

また蓮沼は、中田 (1991) で述べられている、「けっこう」がもつ「断定的なものの言い方をやわらげる」という機能についても、「『自分の予想以上に、事実はそうである可能性がある』という言い方をすることにより、話者はその最終的な真偽について、判断の責任を回避することができる」(p. 292) というように言及している。そしてこの機能は、誘導副詞の用法が派生するメカニズムで説明可能ではないかと提案している。

そして、「けっこう」が聞き手にはたらきかける機能を持つ副詞として紹介された例が小林 (2009) である。

(4) 美紀「(前略) 今日だってリンス補充してなかったし、相変わらずタオル足りなくなるし」

はるこ「でもちゃんと間に合わせました。私なりにやってるつもりです (と、ひるまない)」

高田「(困って) そうだよね、今日は結構たて込んでたし」

(「せかいのおわり」『年鑑代表シナリオ集 '05』2006 シナリオ作家協会)

(4) は、発話者高田がはるこをかばい、美紀に対してなだめている場面である。ここで小林は、「けっこう」を用いることによって、「『美紀はそう思わなかったかもしれないが』という話し手の考え方を伝えることにより、対立を緩和している」(p. 59) と解説し、小林

は「けっこう」に関わる待遇性について「聞き手と異なる話し手の認識について述べる場合、「けっこう」の使用は対立を緩和する効果を与える」と、一般化を行っている。

3. 問題点と研究目的

以上の先行研究を踏まえると、「けっこう」の「聞き手への配慮」という機能が生じるメカニズムについてはその詳細が明らかになっていない。また、中田（1991）と同様に、「聞き手と異なる話し手の考えを述べる場面」とは具体的にはどのような場面なのか、なぜその場面で聞き手に配慮する必要があるのかということについても分析されていない。つまり、「配慮」という言葉は用いているものの、「けっこう」が「配慮表現」として分析されていないということである。本研究では、上記の内容を問題提起として山岡（2008）、山岡ほか（2010）の発話機能論に従い、「けっこう」がどのような発話機能において、どのようなメカニズムで配慮表現として機能するのかということを語用論、ポライトネスの理論から分析していく。

4. 本稿で扱う諸理論

4.1. 山岡政紀の発話機能論

山岡（2008）、山岡ほか（2010）では、これまでの発話機能論と共に、発話行為論で示された適切性条件などの要素を取り入れ、両理論の利点を援用しながらその枠組みを新たに提示した。山岡の発話機能の新たな要素として、語用論的条件というものがある。それは、サールなどの適切性条件が各発話行為を規定するように、各発話機能の範疇を規定するものである。

4.2. ポライトネス理論

ポライトネスとは「会話において、話者と相手の双方の欲求や負担に配慮したり、なるべく良好な人間関係を築けるように配慮して円滑なコミュニケーションを図ろうとする際の社会的言語行動を説明するための概念」（山岡（2004:17））である。ここでは主に今日注目されている、リーチ（G.Leech, 1936-）とブラウン&レヴィンソン（以下、B&L とする）の理論について取り上げる。

4.2.1. リーチのポライトネスの原理

リーチ（1983）は対人関係的修辞を記述するにあたってグライスの協調の原理だけでは説明できない原理、原則を求め、「ポライトネスの原理（the principle of politeness）」という６つの原理を確立した。これは、対人関係の中で自己・他者にかかる利益と負担、または非難と賞賛、意見相違と一致、反感と共感というものが対になっており、それらに配慮して行われる言語行動を原理として表したものである。以下が６つのポライトネスの原理[(2)]である。

気配りの原則（Tact Maxim）	(a) 他者の負担を最小限にせよ
	(b) 他者の利益を最大限にせよ
寛大性の原則（Generosity Maxim）	(a) 自己の利益を最小限にせよ
	(b) 自己の負担を最大限にせよ

是認の原則（Approbation Maxim）	(a) 他者への非難を最小限にせよ
	(b) 他者への賞賛を最大限にせよ
謙遜の原則（Modesty Maxim）	(a) 自己への賞賛を最小限にせよ
	(b) 自己への非難を最大限にせよ
一致の原則（Maxim of Agreement）	(a) 自己と他者との意見相違を最小限にせよ
	(b) 自己と他者との一致を最大限にせよ
共感の原則（Sympathy Maxim）	(a) 自己と他者との反感を最小限にせよ
	(b) 自己と他者との共感を最大限にせよ

4.2.2. B&L のポライトネス理論

彼らのポライトネス理論の中には、「フェイス（face）」という概念が存在する。フェイスとは相手から認めてほしいという欲求であり、それは社会の誰もが持つとしている。また、フェイスには「消極的フェイス（negative face）」と「積極的フェイス（positive face）」の 2 つがあり、前者は自分の領域を他人によって邪魔されたくない、侵害されたくないという欲求であり、後者は他者によく思われたい、好かれたいという欲求である。このフェイスを脅かす可能性のある行為を「フェイス脅かし行為（face-threatening act）」（以下、FTA と呼ぶ）という。この FTA を避けるための言語行動として、「ポライトネス（politeness）」という配慮が必要であり、またこれはどの言語でも普遍的に存在すると述べている。さらに、ポライトネスの中に 2 種類のものがあり、そのうちの消極的フェイスに配慮して行われるのが「消極的ポライトネス（negative politeness）」とされ、これは聞き手が負担を感じるのを減らすための手段である。もう一つは積極的フェイスに配慮して行われるポライトネスを「積極的ポライトネス（positive politeness）」としている。これは聞き手が話し手によく思われているという感じを増やすための手段であるとしている。

また、B&L は「FTA 度計算式（computing the weightiness of an FTA）」によって FTA の度合いは計算されると述べている。その計算式とは、Wx=D（S,H）+P（H,S）というものであり、Wx とは、行為 x によって相手のフェイスが脅かされる度合、D（S,H）とは、話し手 S と聞き手 H の社会的距離、P（H,S）とは聞き手 H と話し手との力の関係、Rx とは、その文化の中で、行為 x が相手にかける負担の度合としている。

5. 配慮表現としての「けっこう」に関する調査

5.1. 調査目的と調査対象

ここでは誘導副詞として「けっこう」が使用されるとき、どのような発話機能において配慮表現として機能するかを調査した。発話機能としては、FTA が生じる可能性が高いと思われる《主張》《反論》《非難》《自賛》の 4 つを調査した。調査の対象は創価大学に在籍する大学生の 10 代後半から 20 代前半の日本語母語話者男女 50 名である。全体人数 50 名のうち男性は 13 名、女性は 37 名である。調査内容に関しては巻末の資料 1 を参照されたい。

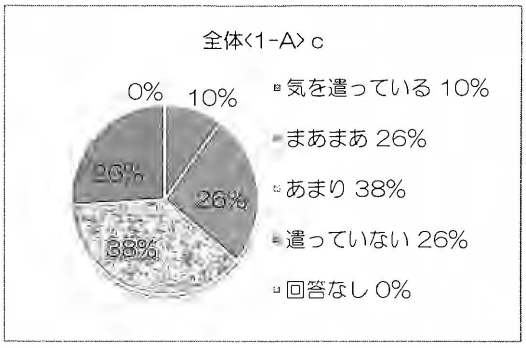
5.2. 調査結果

5.2.1. A 群（かなり，副詞なし，けっこう，＋ 非断定の文末形式の比較）

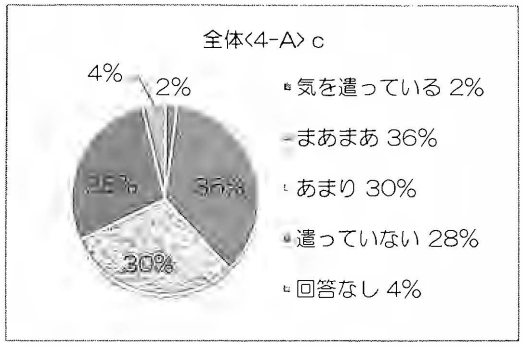
以下、調査結果を記す。A 群は全ての用例の文末に非断定的な要素が含まれているもの

である。図 1 の《主張》において「けっこう」が「気を遣っている」「まあまあ気を遣っている」を併せた回答者は全体の 36%であった。また、図 2 の《自賛》において「けっこう」が「気を遣っている」「まあまあ気を遣っている」を併せた回答者は全体の 38%であった。

［図 1］ A 群《主張》

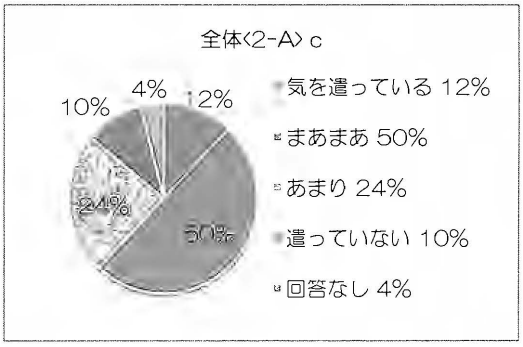


［図 2］ A 群《自賛》

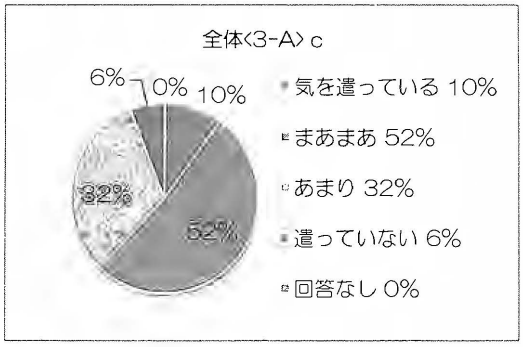


また、図 3 の《反論》において「けっこう」が「気を遣っている」「まあまあ気を遣っている」を併せた回答者は全体の 62%であり、図 4 の《非難》において「けっこう」が「気を遣っている」「まあまあ気を遣っている」を併せた回答者は全体の 62%であった。

［図 3］ A 群《反論》



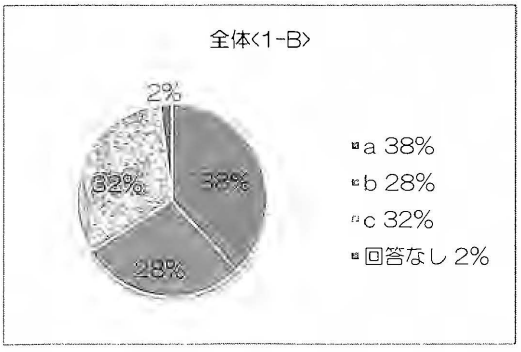
［図 4］ A 群《非難》



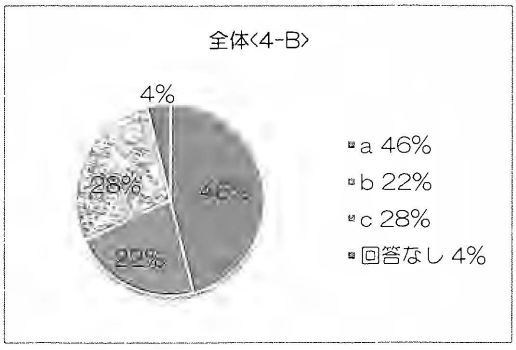
5.2.2.B 群（副詞なし，けっこう，＋ 断定の文末形式の比較）

B 群は全ての例文の文末が断定的なものである。図 5 の《主張》において「けっこう」が気を遣っていると答えた回答者は全体の 28%であった。また、図 6 の《自賛》において「けっこう」が気を遣っていると答えた回答者は全体の 22%であった。

［図 5］ B 群《主張》

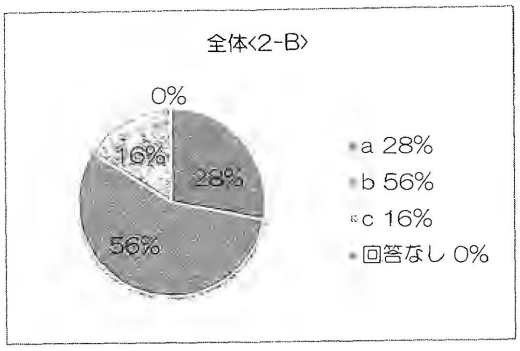


［図 6］ B 群《自賛》

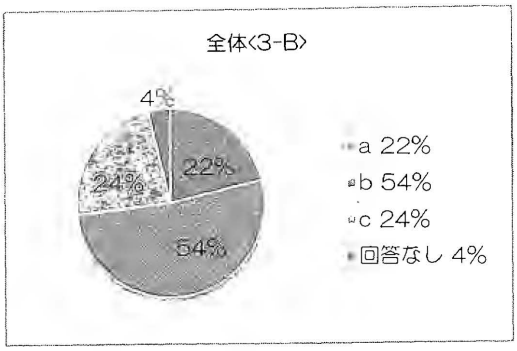


また、図 7 の《反論》において「けっこう」が気を遣っていると答えた回答者は全体の 56% であり、図 8 の《非難》において「けっこう」が気を遣っていると答えた回答者は全体の 54% であった。

［図 7］ B 群《反論》



［図 8］ B 群《非難》



5. 3. 調査のまとめ

上記の A 群と B 群のデータをまとめると以下のことが言える。

・「けっこう」が「誘導副詞」として発話のなかで使用されるとき、《反論》と《非難》の発話機能において、配慮表現としての機能を果たし得る。（A 群）

・「けっこう」が使用される発話の文末に非断定的な要素がなく、「けっこう」という副詞だけが使用される発話においても、《反論》と《非難》の発話機能においては「けっこう」が配慮表現としての機能を果たし得る。（B 群）

6. 配慮表現としての「けっこう」が使用される発話機能

これまでの調査から山岡の発話機能論を理論の基盤として「けっこう」が《反論》と《非難》の発話機能において配慮表現として使用されることがわかった。これらは以下の発話機能の 5 分類のうち、{演述}の発話機能の範疇に当たるものである。これは中田（1991）の述べる「否定的な見解など、言いにくいことを述べる場合」（p. 89）という発話状況、また、小林（2009）の述べる「聞き手と異なる話し手の認識について述べる場合」（p. 53）という発話状況が発話機能として具現化されたことになる。

また、{演述}の範疇に属する発話機能の共通の目的と共通の語用論的条件は以下の通りである。

［表 1］ {演述}の共通の目的と共通の語用論的条件

{演述} （Assertives）
共通の目的：世界の現象に対して述べること 共通の語用論的条件：①参与者 B が当該命題を述べる根拠を有していないことは自明ではないこと （山岡ほか（2010:132））

そして、{演述}に属する下位分類としての発話機能は、《陳述要求》・《陳述》、《報告要求》・《報告》、《主張要求》・《賛同》／《反論》、《賞賛要求》・《賞賛》、《非難》である。このうち、「けっこう」が配慮表現として使用される発話機能は、《反論》、《非難》である。以下がその発話機能の目的と語用論的条件である。

［表 2］「けっこう」が配慮表現として使用されると考えられる発話機能

《反論》 目的：世界の現象に対する参与者の意見を述べること 語用論的条件：共通①に加えて、③当該命題は参与者の立場によって異なるものであること （山岡ほか（2010:132））
《非難》 目的：参与者 B が参与者 A に対して否定的評価を伝えること 語用論的条件：共通①に加え、③当該命題は参与者 A またはその所有物に関するものであること④参与者 B が述べる当該命題は参与者 A にとって望ましくないものであること　（山岡ほか（2010:133））

7.「けっこう」が配慮表現として果たす機能

7.1.《反論》の緩和

以下、調査で用いた例文をもとに、「けっこう」がどのようなメカニズムによって配慮表現として機能するのか分析を試みる。

A 群

〔発話機能〕《反論》 〔配慮〕相手に対する反論や非共感の程度をぼかすことで緩和する。
(5)　F071：H ちゃん、今、何履いてるかな、靴を。靴を何センチ履いてるかだよ。 F145:18 ぐらいじゃない？（中略） F071：に、18 ではないんじゃないかなあ。（うん、ね）結構足大きいんじゃないかな。（名大）

「けっこう」が文末の「かな」という自問の表現をとった非断定的な文末形式と結びつき、誘導副詞としてはたらき、その最終的な判断を回避することでそこに配慮表現としての機能が生じる。相手のネガティブフェイスに配慮したネガティブポライトネスといえよう。また、これはリーチの合意の原則の「(a) 自己と他者との意見相違を最小限にせよ」、共感の原則の「(a) 自己と他者との反感を最小限にせよ」に沿った用法である。

B 群

〔発話機能〕《反論》 〔配慮〕相手に対する反論や非共感の程度をぼかすことで緩和する。
(6) F071：H ちゃん、今、何履いてるかな、靴を。靴を何センチ履いてるかだよ。 F145：18 ぐらいじゃない？（中略） F071：に、18 ではないんじゃないかなあ。（うん、ね）結構足大きいよ。

寺村（1991）の「主観的，感情移入」という「けっこう」の性質によって、「客観的ではないが、あくまでも私はこう思う」という意味が生じ、その命題に対する最終的な判断を免れることができ、「足大きい」という命題が非断定的なものになり、聞き手への≪反論≫が

緩和されることになる。相手のネガティブフェイスに配慮したネガティブポライトネスといえよう。また、これはリーチの合意の原則の「(a) 自己と他者との意見相違を最小限にせよ」、共感の原則の「(a) 自己と他者との反感を最小限にせよ」に沿った用法である。

7.2.《非難》の緩和

A 群

〔発話機能〕《非難》
〔配慮〕発話者の主観的な相手を傷つける内容の程度をぼかすことによって相手を気遣う配慮表現。 (7) B：まぁちゃんの私生活見てきたけど…、けっこう酒飲みだと思うのよ。 A：うん…。　(世界)

「けっこう」が話し手の主観的で非断定的な判断を示す「と思う」と結びつくことで、誘導副詞としてはたらき、「酒飲み」という程度を非断定的なものへとぼかしながら婉曲的に《非難》している。そうすることでこの《非難》によって生じる FTA を緩和することができる。相手のネガティブフェイスに配慮したネガティブポライトネスといえよう。またこれはリーチの是認の原則における「(a) 他者への非難を最小限にせよ」に則った言語使用といえる。

B 群

〔発話機能〕《非難》 〔配慮〕発話者の主観的な相手を傷つける内容の程度をぼかすことによって相手を気遣う配慮表現。
(8) B：まぁちゃんの私生活見てきたけど…、けっこう酒飲みだよ。 A：うん…。

寺村 (1991) の「主観的，感情移入」という「けっこう」の性質によって、「客観的ではないが、あくまでも私はこう思う」という意味が生じ、その命題に対する最終的な判断を免れることができ、「酒飲み」という命題が非断定的なものになり、聞き手への≪反論≫が緩和されることになる。相手のネガティブフェイスに配慮したネガティブポライトネスといえる。またこれはリーチの是認の原則における「(a) 他者への非難を最小限にせよ」に則った言語使用である。

8. おわりに

以上、本研究では、渡辺 (1990) の「けっこう」の誘導副詞としての用法に着目し、語用論やポライトネス理論の観点を取り入れて、「けっこう」を対人関係上の視点から考察してきた。

そして、5.2. 調査結果から、「けっこう」が渡辺 (1990) の述べる、誘導副詞としての用法から派生して、《反論》また《非難》という発話機能において、配慮表現として機能することが明らかになった。と同時に、誘導副詞の特徴である、文末に非断定的な要素が含ま

れるということがなくても、「けっこう」が《反論》、《非難》の発話機能において使用されるとき、配慮表現としての機能を果たすことが調査結果から明らかになった。以上によって、先行研究ではその存在がはっきりと示されていなかった、「けっこう」の配慮表現としての機能の存在が明らかになり、また、その配慮表現としての「けっこう」が生じるメカニズムについても、本研究で示すことができたのではないかと考えられる。

また、本研究では、日本語母語話者にのみ限って考察したが、今後はKYコーパスなどから日本語学習者の「けっこう」の使用状況を探り、配慮表現としての「けっこう」に関する調査を行ってみたいものである。また、このような「けっこう」は日本語教科書においてはどのように用いられているのかということについても調査の対象としたい。さらに、本研究を進めていく過程で見受けられた事実として、「けっこう」が文末において使用される傾向が多数存在した。今後、このような現象においての分析も試みることにしたい。

注

(1) 本研究では出典が漢字表記でない限り、平仮名表記を用いることにする。
(2) 訳語は山岡ほか（2010）に従う。

参考文献

小林玲子（2009）「量程度の副詞における主観性―『けっこう』を中心として―」『日本語教育連絡会議論文集』Vol.21　日本語教育連絡会議事務局 51 - 60

寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』第3版　くろしお出版

中田智子（1991）「談話における副詞のはたらき」国立国語研究所『副詞の意味と用法』大蔵省印刷局 81 - 107

蓮沼昭子（2001）「談話における『けっこう』について」『日本語の伝統と現代』和泉書院 279 - 294

山岡政紀（2004）「日本語における配慮表現研究の現状」『日本語日本文学』第 14 号，創価大学日本語日本文学会 17 - 39

――――（2008）『発話機能論』くろしお出版

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門―』明治書院

渡辺実（1990）「程度副詞の体系」『上智大学国文学論集』23 上智大学 1 - 16

Brown, P. and S. Levinson（1987）*Politeness: Some universals in language usage*, Cambridge University Press.

Leech, G.（1983）*Principles of Pragmatics*, Longman.（邦訳：池上嘉彦・河上誓作訳（1987）『語用論』紀伊國屋書店）

用例出典（カッコ内は略称、出典のないものは作例）

1　テレビドラマ・バラエティ番組より
　（世界）「世界弾丸トラベラー」日本テレビ（2010年2月27日放送）

2　コーパスより
　（名大）「名大会話コーパス」

（福田伸枝、創価大学教育・学習活動支援センター助教、nfukuta@soka.ac.jp）

［資料 1］配慮表現としての「けっこう」に関する調査　アンケート用紙

ことばのアンケート

創価大学大学院文学研究科人文学専攻
日本文学日本語専修
福田修程

説明

1. このアンケートに正解・不正解はございませんので、考えすぎず直感でお答えください。
2. 各問いの a～c の選択肢の文章について、イントネーションやアクセントは考慮に入れず、全てスムーズに、平坦に発話されたものとしてお答えください。

●以下のアンケートにお答えください。

【性別】［ 男 ・ 女 ］【年齢】［　　］

<1－A>

あなたの友人がその友人に起こったある奇跡について話してくれましたが、あなたは、その話は奇跡ではなくどこにでもある話だと思いました。その時、以下の 3 つの例は**あなたが思ったことをなるべく相手を傷つけないように、どれくらい気を遣って伝えている**と思いますか。その度合いに○をつけて下さい。

a.「まぁ、でもかなりある話なんじゃない？」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

b.「まぁ、でもある話なんじゃない？」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

c.「まぁ、でもけっこうある話なんじゃない？」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

<1－B>

1－A と同じ状況で、以下の二つの例文のうち、どちらがなるべく相手を傷つけないように気を遣って伝えていると思いますか。○をつけて下さい。

a.「まぁ、でもある話だよ。」
b.「まぁ、でもけっこうある話だよ。」
c. どちらでもない

※「b」を選択された方のみお答えください。なぜそのように思われましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<3－B>

3－A と同じ状況で、以下の二つの例文のうち、どちらがよりなるべく相手を傷つけないように気を遣って伝えていると思いますか。○をつけて下さい。

a.「A ちゃんの私生活見てきたけど…、酒飲みだよ。」
b.「A ちゃんの私生活見てきたけど…、けっこう酒飲みだよ。」
c. どちらでもない

※「b」を選択された方のみお答えください。なぜそのように思われましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<4－A>

あなたは「若いころは異性から人気があった」と友人に自慢したいと思っています。その時、以下の 3 つの例は**それを自慢することでなるべく自分が嫌われないように、どれくらい気を遣って伝えている**と思いますか。その度合いに○をつけて下さい。

a.「18 まではね。かなり人気あったかな。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

b.「18 まではね。人気あったかな。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

c.「18 まではね。けっこう人気あったかな。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

<4－B>

4－A と同じ状況で、以下の二つの例文のうち、どちらがよりなるべく自分が嫌われないように気を遣って伝えていると思いますか。○をつけて下さい。

a.「18 まではね。人気あった。」
b.「18 まではね。けっこう人気あった。」
c. どちらでもない

※「b」を選択された方のみお答えください。なぜそのように思われましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

<2－A>

あなたはあなたと同じマンションに住んでいる住人と、ある子どもの足のサイズについて話し合っています。その住人がその子どもの足のサイズについて「18cm くらいじゃない？」と言いますが、あなたはそれよりも大きいと反論したいと思っています。その時、以下の 3 つの例は**あなたが思ったことをなるべく相手を傷つけないように、どれくらい気を遣って伝えている**と思いますか。その度合いに○をつけて下さい。

a.「18 ではないんじゃないかなぁ。かなり足大きいんじゃないかな。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

b.「18 ではないんじゃないかなぁ。足大きいんじゃないかな。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

c.「18 ではないんじゃないかなぁ。けっこう足大きいんじゃないかな。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

<2－B>

2－A と同じ状況で、以下の二つの例文のうち、どちらがよりなるべく相手を傷つけないように気を遣って伝えていると思いますか。○をつけて下さい。

a.「18 ではないんじゃないかなぁ。足大きいよ。」
b.「18 ではないんじゃないかなぁ。けっこう足大きいよ。」
c. どちらでもない

※「b」を選択された方のみお答えください。なぜそのように思われましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<3－A>

あなたは友人(＝A ちゃん)のことを酒飲みだと思っています。その時、以下の 3 つの例は**あなたが思ったことをなるべく相手を傷つけないように、どれくらい気を遣って伝えている**と思いますか。その度合いに○をつけて下さい。

a.「A ちゃんの私生活見てきたけど…、かなり酒飲みだと思うのよ。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

b.「A ちゃんの私生活見てきたけど…、酒飲みだと思うのよ。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）

c.「A ちゃんの私生活見てきたけど…、けっこう酒飲みだと思うのよ。」
（ 気を遣っている・まあまあ遣っている・あまり遣っていない・気を遣っていない ）